

画像診断と治療 (Clinical Radiology)

【責任者/担当者】

〔放 射 線 医 学〕山門 亨一郎 主任教授

【担当者】

〔放 射 線 医 学〕高木 治行 准教授、富士原 将之 講師、池田 譲太 講師、
加古 泰一 講師、児玉 大志 助教、河中 祐介 助教、
興津 茂行 非常勤講師、
〔放射線医療センター〕北島 一宏 准教授

【目的】

- ・現在の医療の場において必要不可欠な CT や MRI、核医学・PET といった画像診断を理解するため、本授業で各種の画像診断の基礎知識と臨床を修得する。
- ・X 線透視や CT 画像を見ながらカテーテルや針を使って行う治療 IVR(Interventional Radiology)の基礎と臨床を理解する。
- ・がん治療の三本柱の一つとして重要な役割を担っている放射線治療を理解する。
- ・各種の放射線医薬品・画像診断装置、放射線治療装置の安全な取扱い方法を理解する。
- ・放射線の生体への影響、放射線災害医療を理解する。

【科目キーワード】

「画像診断(Diagnostic radiology)」 「IVR(Interventional radiology)」 「核医学診断(Nuclear medicine)」 「放射線治療(Radiation Therapy)」

【到達目標(アウトカム)】

画像診断・核医学

- ☐ CT、MRI、核医学検査、X 線 TV 等各種検査の適応について列挙できる。
- ☐ 核医学検査に用いる放射性医薬品、撮像方法について列挙できる。
- ☐ 代表的な疾患の画像所見について説明できる。

血管造影・IVR

- ☐ 血管造影の画像所見について論述できる。
- ☐ IVR の種類と適応・方法について論述できる。

放射線治療

- ☐ がん診療における放射線治療の適応・照射方法について論述できる。
- ☐ 放射線治療の副作用(急性期、晩期)について論述できる。

放射線防護

- ☐ 被ばくによる障害および放射線防護について論述できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

放射線医学(画像診断、核医学、IVR、放射線治療、被ばく)全般に関する科目であり、本授業は講義形式で学修する。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

前日までに該当する部分の講義冊子に目を通しておくこと。

【成績の評価方法・基準】

試験(マークシート)100%

【学生への助言】

不明な事項については、講義中もしくは講義後に積極的に質問すること。

【フィードバック方針】

学生毎の個別に答案を開示する。

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

「標準放射線医学(第7版)」西谷弘、他 編(医学書院)2011年

「IVR マニュアル(第2版)」栗林幸夫、中村健治、廣田省三、吉岡哲也 編(医学書院)2011年

「核医学ノート(第6版)」久保敦司、藤井博史、橋本順著(金原出版)2019年

「がん・放射線療法 2017(改訂第7版)」大西洋、唐澤久美子、唐澤克之 編著
(学研メディカル秀潤社)2017年

「やさしくわかる放射線治療学」日本放射線腫瘍学会 監修(学研メディカル秀潤社)2018年

【参考書】

特になし

【連絡先】

8号館 6階 放射線医学 医局